

# 切腹 (Harakiri)

観賞日 2022年11月28日 上映時間 133分

## 【概要】

制作 1962年  
監督 小林正樹  
脚本 橋本忍  
音楽 武満徹  
撮影 宮島義勇  
出演 仲代達矢 (津雲半四郎)、三國連太郎 (齊藤勘解由)  
石濱朗 (千々岩求女)、岩下志麻 (美保)  
丹波哲郎 (沢潟彦九郎)



## 【あらすじ】

寛永7年(1630年)5月13日、井伊家上屋敷。大藩であった芸州福島家の浪人津雲半四郎と名乗る者が現われる。津雲は仕官の道もなくこのまま浪人生活に甘んじるのは忍びなく切腹する場所を探していると語る。井伊家は赤備えの勇武の家風で武士の晴の死に場としてはふさわしいと考えたという。応対した家老の齊藤勘解由はその年の1月にも福島家中の千々岩求女と名乗る若者が同様の主旨で現れたと話す。そしてその時井伊家で起きた詳細を語る。

当時江戸市中には浪人があふれ、大名屋敷で切腹するといいながら金品をせしめて帰るといふ輩が横行していた。千々岩も他の輩と同様の理由で当家を訪れたが武勇を重んじる井伊家では切腹は武士の鑑で感服したとして切腹を認めると言い出した。驚いた千々岩は一時帰宅を懇願するが認められず、衆人環視のもと竹光で切腹するという塗炭の苦しみを味わいながら絶命する。

家老は千々岩の話をして翻意を促すが津雲の決意は変わらない。津雲は死を前にして千々岩との関係を静かに話し始める。理不尽なお家取潰しに端を発する親友の千々岩陣内の切腹、陣内の息子求女と自分の娘美保との結婚、初孫金吾と美保の病気とその後の死亡、求女が井伊家を訪れた経緯、井伊家から死体で帰ってきたこと。ようやく、津雲の魂胆に気付く井伊家の重臣たち。津雲は井伊家の強者三名との決闘を話し井伊家を嘲笑する。面目をつぶされた家老は井伊家の威信をかけて津雲に襲いかかる。

面目にこだわる非人間的な武士道を痛烈に批判した問題作。格調高い凛とした作品。

## 【解説】

### ■ポイント

#### ●江戸初期の浪人事情

当時は徳川幕府により取潰し、国替えされた大名が多発し、それに伴って大量の浪人が発生した。浪人は新しい仕官先を求めたが天下泰平の世では仕官は難しいものであった。

#### ●橋本忍(1918年~2018年)

- ・兵庫県生まれの脚本家。生涯に90本ほどの作品を執筆。
  - ・伊丹万作に師事。伊丹の死後黒澤明と知り合い「羅生門」を共同執筆。以後「生きる」「七人の侍」等黒澤の代表作を共同執筆。
  - ・TVドラマ「私は貝になりたい」を執筆、その後映画化され監督を務める。
  - ・代表作:「白い巨塔」(1966年)、「砂の器」(1974年)、八甲田山(1977)
  - ・映画界最強の脚本家と呼ばれ脚本の世界では神様の存在
- 2000年に故郷に「橋本忍記念館」が設立された。



年)

### ■見どころ

#### ●当時29歳の仲代達矢入魂の名演技

- ・名優三國連太郎との演技合戦
- ・井伊家随一の剣の使い手、澤潟(=丹波哲郎)との決闘シーンは迫力満点

#### ●赤備えの鎧

武勇の井伊家の象徴。ひいては武士、武士道の象徴。